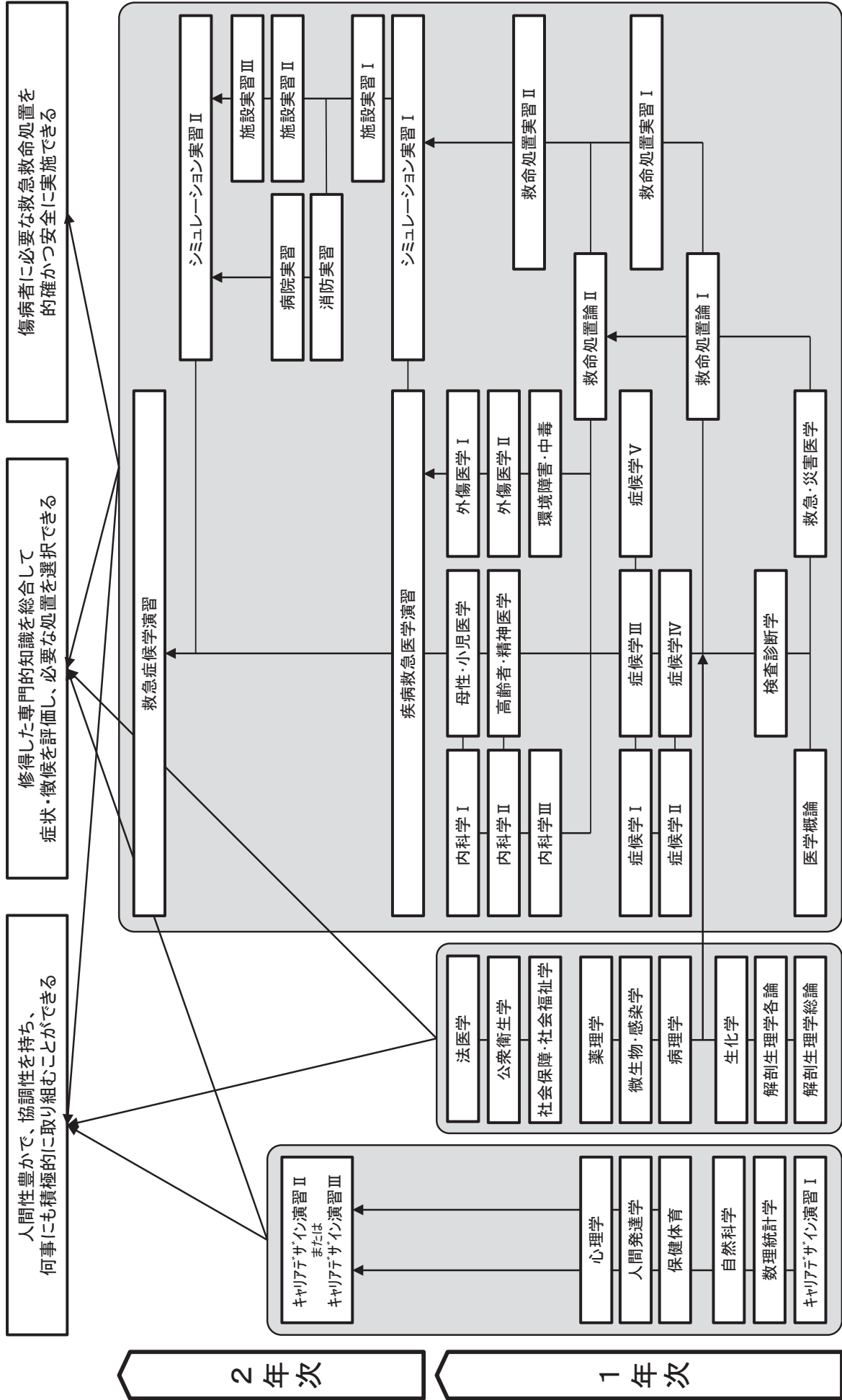


救 急 救 命 学 科

救急救命学科 カリキュラム

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	自然科学	1	15			1	15		8
		数理統計学	1	15			1	15		
		心理学	1	15			1	15		
		人間発達学	1	15			1	15		
		キャリアデザイン演習Ⅰ	3	90			3	90		
		キャリアデザイン演習Ⅱ			3	90	3	90	2科目のうち 1科目選択	
		キャリアデザイン演習Ⅲ								
保健体育	2	60			2	60				
基礎分野	小計		9	210	3	90	12	300		8
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学総論	1	15			1	15		4
		解剖生理学各論	2	30			2	30		
		生化学	1	15			1	15		
	疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	1	15			1	15		4
		病理学	1	15			1	15		
		法医学	1	15			1	15		
		微生物・感染学	1	15			1	15		
	健康と社会保障	公衆衛生学	1	15			1	15		2
		社会保障・社会福祉論	1	15			1	15		
	専門基礎分野	小計		10	150	0	0	10	150	
専門分野	救急医学概論	医学概論	1	15			1	15		6
		救急・災害医学	2	30			2	30		
		検査診断学	1	15			1	15		
		救命処置論Ⅰ	2	30			2	30		
		救命処置論Ⅱ	2	30			2	30		
	救急症候・病態生理学	症候学Ⅰ	2	30			2	30	心肺停止、循環不全	8
		症候学Ⅱ	2	30			2	30	意識障害	
		症候学Ⅲ	2	30			2	30	胸痛、腰・背部痛	
		症候学Ⅳ	2	30			2	30	腹痛・嘔吐下痢	
		症候学Ⅴ	2	30			2	30	体温異常 他	
		救急症候学演習			2	60	2	60		
	疾病救急医学	内科学Ⅰ	2	30			2	30	呼吸器・循環器系	8
		内科学Ⅱ	2	30			2	30	神経系、感覚系	
		内科学Ⅲ	2	30			2	30	内分泌・泌尿生殖、血液・免疫系	
		母性・小児医学	2	30			2	30		
		高齢者・精神医学	2	30			2	30		
		疾病救急医学演習			4	120	4	120		
	外傷救急医学	外傷医学Ⅰ	2	30			2	30	総論、頭・頸部、四肢外傷 他	4
		外傷医学Ⅱ	2	30			2	30	胸・腹・腰部外傷 他	
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	1	15			1	15		1
臨地実習	臨地実習	救命処置実習Ⅰ	2	90			2	90		25
		救命処置実習Ⅱ	3	135			3	135		
		シミュレーション実習Ⅰ			4	180	4	180		
		シミュレーション実習Ⅱ			6	270	6	270		
		消防実習			3	135	3	135		
		病院実習			4	180	4	180		
		施設実習Ⅰ			1	45	1	45		
		施設実習Ⅱ			1	45	1	45		
施設実習Ⅲ			1	45	1	45				
専門分野	小計		38	720	26	1080	64	1800		52
	総計		57	1080	29	1170	86	2250		70

救急救命学科カリキュラムツリー



2 年 次

目次：救急救命学科 2 年次

キャリアデザイン演習Ⅱ	399
キャリアデザイン演習Ⅲ	400
救急症候学演習	401
疾病救急医学演習	402
シミュレーション実習Ⅰ	403
シミュレーション実習Ⅱ	404
消防実習	405
病院実習	406
施設実習Ⅰ	407
施設実習Ⅱ	408
施設実習Ⅲ	409

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	キャリアデザイン演習Ⅱ
代表講師	仮 屋 俊 作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演 習	単位数	4	学期・回数	前期：45回(90時間)
授 業 概 要	キャリアデザイン演習Ⅰでの学びを基に、就職するために、より直接的に必要な知識・技能を総合的に学習する。				
到 達 目 標	1. 相手に伝わる志望理由や自己推薦等を書く・話すことができる。 2. 就職するために必要な知識を身につける。				
成績評価の方法と基準	伝わる文書：ルーブリックを用いた履歴書の評価(30%) 伝わる話し方：ルーブリックを用いた模擬面接の評価(30%) 就職試験対策：公務員採用模擬試験の成績(40%)				
テキスト・教材等	『9割受かる！公務員試験「作文・小論文」の勉強法』、『消防官採用試験 面接試験攻略法』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～ 第10回	<p>ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 伝わる文書の書き方・伝わる話し方を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルポートフォリオを用いて、自己を振り返る。 2. なぜ？を見つける。 3. なぜ？を文章にする。(履歴書「志望理由」を書く) 4. なぜ？を言葉にする。(模擬面接を受ける) 				後藤正和
第11回 ～ 第45回	<p>就職試験対策として以下の知識を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語(作文・文芸・漢字) 2. 数的推理・数的判断 3. 社会科学(政治・経済・倫社) 4. 人文科学(日本史・世界史) 5. 時事・社会 6. 資料 7. 適性 8. その他 <p>特別講師 学校法人 熊本壺溪塾学園講師</p> <p>総括的評価として公務員採用模擬試験を受験する。</p>				仮屋俊作 藤岡晴美

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	キャリアデザイン演習Ⅲ
代表講師	後藤正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	演習	単位数	3	学期・回数	前期：45回(90時間)
授業概要	キャリアデザイン演習Ⅰでの学びを基に、就職するために、より直接的に必要な知識・技能を総合的に学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 相手に伝わる志望理由や自己推薦等を書く・話すことができる。 就職するために必要な知識を身につける。 				
成績評価の方法と基準	伝わる文書：ルーブリックを用いた履歴書の評価(30%) 伝わる話し方：ルーブリックを用いた模擬面接の評価(30%) 就職試験対策：就職試験Webテストの成績(40%)				
テキスト・教材等	専門学校生のための就職試験筆記試験対策問題集、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～ 第10回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 伝わる文書の書き方・伝わる話し方を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルポートフォリオを用いて、自己を振り返る。 2. なぜ?を見つける。 3. なぜ?を文章にする。(履歴書「志望理由」を書く) 4. なぜ?を言葉にする。(模擬面接を受ける) 				後藤正和
第11回 ～ 第45回	就職試験対策として以下の知識を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 英語 5. 一般常識 6. 適性 総括的評価として就職試験Webテストを受験する。				仮屋俊作 藤岡晴美

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	救急症候学演習
代表講師	藤岡晴美（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	演習・講義	単位数	2	学期・回数	前期：30回（60時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	看護師として病院に勤務していた教員が、救命救急センターにおける診療の補助の経験を活かし、救急症候・病態について総合的に演習を行う。				
授業概要	学外での臨地実習（特に消防実習、病院実習）の前提として症候・病態について総合的に演習する。				
到達目標	1. 症例・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法を説明できる。 2. 症候・病態と疾病を関連付けることができる。				
成績評価の方法と基準	確認試験の合計（30%） 中間試験（40%） ルーブリックを用いたレポート評価（30%）				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、別途配布する資料、観察のためのフローチャート （参考：病気が見えるシリーズ1.2.4.5.6.7.8.10）				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス（授業の進め方と評価方法） 『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、別途配布する資料、観察のためのフローチャート （参考：病気が見えるシリーズ1.2.4.5.6.7.8.10）				藤岡 晴美 岩永ひとみ
第2回	呼吸困難をきたす疾病の病態生理について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				藤岡 晴美
第3回	腹痛を主症状とする疾病の病態生理について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				岩永ひとみ
第4回	意識障害及び局所神経症状を主症状とする疾病の病態生理について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				藤岡 晴美
第5回	ショック徴候と生体反応について理解を深め、循環不全の症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				〃
第6回	内分泌系疾患の主要症候について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				岩永ひとみ
第7回	環境障害から引き起こされる主要症候について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				藤岡 晴美
第8回	感染症から引き起こされる主要症候について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				岩永ひとみ
第9回	中毒を引き起こす原因物質について理解を深め、症状から臨床推論ができる。 確認試験と解説				仮屋 俊作
第10回 ～ 第13回	臨床推論① 提示された症例から「この傷病者に何が起きているのか」推論することができる。また、それらから「優先される処置」「搬送方法」がわかる。 症候別に提示する症例から臨床推論しレポートする。				藤岡 晴美 岩永ひとみ
第14回	中間試験と解説（試験範囲：第1回～第9回）				〃
第15回 ～ 第30回	臨床推論② 提示された症例から「この傷病者に何が起きているのか」推論することができる。また、それらから「優先される処置」「搬送方法」がわかる。 症候別に提示する症例から臨床推論しレポートする。				〃

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	疾病救急医学演習
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	4	学期・回数	後期：60回(120時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	看護師として病院に勤務していた教員が、病棟における診療の補助の経験を活かし、専門基礎分野及び専門分野の全科目を総合的に演習を行う。				
授 業 概 要	2年次最終の授業として、疾病救急医学をはじめ、専門基礎分野及び専門分野の全科目を総合的に演習する。				
到達目標	1. 自己分析を行い、各自が到達目標を設定し専門基礎科目の学力向上を目指す。 2. 自己分析を行い、規則正しい学習習慣が定着する。 3. 専門分野の弱点について、各自が到達目標を設定し知識の向上を目指す。				
成績評価の方法と基準	修得度確認試験(50%) 定期試験(50%) ※出題は国家試験形式とし、採点は200問×0.5点で計算する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、イラストで解る救急救命士国家試験直前ドリル (参考『病気がみえるシリーズ1、2、4、5、6、7、8、10』、かんテキ循環器)				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～ 第4回	国家試験形式模擬試験と解説				岩永ひとみ
第5回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 国家試験形式模擬試験の結果から考察する自己分析 症例問題の解き方のコツ(症例問題解説) 短期学習計画立案				〃
第6回 第7回	実力確認試験(専門基礎分野)と解説 範囲：人体の構造と機能、疾患の成り立ちと回復の過程、健康と社会保障				〃
第8回 ～ 第17回	専門基礎分野(講義・演習)				岩永ひとみ 藤岡晴美
第18回	修得度確認試験(専門基礎分野)と自己分析 試験結果から考察する自己分析ならびに短期学習計画修正				岩永ひとみ
第19回 第20回	実力試験(専門分野)と解説 範囲：救急医学概論、救急症候、病態生理、疾病救急医学、外傷救急医学、環境障害、急性中毒				〃
第21回 ～ 第51回	専門分野(講義・演習)				岩永ひとみ 藤岡晴美 仮屋俊作
第52回	修得度確認試験(専門分野)と自己分析 試験結果から考察する自己分析ならびに短期学習計画修正				岩永ひとみ
第53回 ～ 第57回	まとめ(講義・演習)				〃
第58回 ～ 第61回	試 験 ※国家試験形式				岩永ひとみ 藤岡晴美 仮屋俊作

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	シミュレーション実習Ⅰ
代表講師	後藤正和 (所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実習	単位数	4	学期・回数	前期:90回(180時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	救急救命士として消防本部に勤務していた教員が、救急現場における救急救命処置等の経験を活かし、1年次の講義や救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用した実践的な技術を指導する。				
授業概要	学外での臨地実習の前提として、1年次の講義や救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用した実践的な実習を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用することができる。 的確な問診と観察により、臨床推論が展開できる。 多数傷病者への対応ができる。 効果的・効率的・魅力的な指導ができる。 人間性を磨き、積極的に社会貢献する態度を培う。 チーム医療に必要な協調性を修得する。 				
成績評価の方法と基準	到達目標1～4:各種確認試験の合計(20%)、達成度評価の合計(40%)、実習日誌評価の合計(20%) 到達目標5～6:ルーブリックを用いた態度評価(20%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』 『救急活動シミュレーション学習』、JPTECプロバイダーコース e-learning サイト 他				
回数	授 業 内 容				担当講師
(全1回)	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) ※在校生オリエンテーション時に実施する ・実習の進め方と評価方法、SA(Student Assistant)制度について シミュレーション実習Ⅰに向けた事前学習課題確認試験(合格基準100%)				後藤正和 仮屋俊作
(全6回)	A 項目「指導技法」 ・1年生に対する指導をとおして、効果的・効率的・魅力的な指導技法を身につける。 ・救急蘇生法指導(6回)				後藤正和
(全13回)	B 項目「CPA想定」 ・消防実習事前学習課題確認試験(筆記)「CPA」(1回) ・消防実習に必要な実技の確認試験(実技)「気道・呼吸・循環管理」(1回) ・救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用し、CPA 傷病者に対する実践的な救急活動を実習する。 ・走行中の救急車内でのCPRを体験する。 ・チームビルディングの重要性を認識する。 ・達成度評価と講評(2回)				〃
(全13回)	C 項目「外傷想定」 ・消防実習事前学習課題確認試験(筆記)「外傷」(1回) ・消防実習に必要な実技の確認試験(実技)「搬送法 他」(1回) ・救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用し、外傷傷病者に対する基本的な救急活動を実習する。 ・達成度評価と講評(3回) ・JPTECプロバイダーコースにおける達成度評価と講評(予定)				〃
(全4回)	D 項目「多数傷病者想定」 ・消防実習事前学習課題確認試験(筆記)「トリアージ」(1回) ・救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用し、多数傷病者に対する基本的な救急活動を実習する。				〃
(全20回)	E 項目「内因・外因性想定」 ・消防実習事前学習課題確認試験(筆記)「内因・外因性」(1回) ・消防実習に必要な実技の確認試験(実技)「バイタル測定」(1回) ・救命処置実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を応用し、内因性・外因性(外傷を除く)傷病者に対する基本的な救急活動を実習する。 ・エピペンの使用、血糖値測定、ブドウ糖溶液の投与を実習する。 ・ストレスマネジメントについて学ぶ。 ・達成度評価と講評(3回)				〃
(全4回)	F 項目「高齢者想定」 ・施設実習Ⅰ事前学習課題確認試験(筆記)(1回) ・内因性・外因性想定で学んだ知識・技術を応用し、高齢者への対応を実習する。 ・高齢者介護に必要な技術を実習する。				岩永ひとみ 藤岡晴美
(全6回)	G 項目「病院内想定」 ・病院実習事前学習課題確認試験(筆記)「総合」(1回) ・病院実習に必要な実技の確認試験(実技)「バイタル測定、気道・呼吸・循環管理」(2回) ・救急診療部門の構造と機能をビデオで学ぶ。 ・救急診療部門における問診、バイタル測定、移乗、救命処置の流れを実習する。 ・手術室の構造を模擬実習室で学ぶ。 ・手術室内での清潔操作、気道管理、循環管理を実習する。				藤岡晴美 仮屋俊作
(全24回)	H 項目「総合」 ・それまでの学内・外での臨地実習を踏まえ、救急救命士として必要な知識・技術を総括し、より実践的な実習を行う。 ・達成度評価と講評(4回)				後藤正和 仮屋俊作

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨 地 実 習	科目名	シミュレーション実習Ⅱ
代 表 講 師	後 藤 正 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	実 習	単位数	6	学期・回数	後期：135回 (270時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	救急救命士として消防本部に勤務していた教員が、救急現場における救急救命処置等の経験を活かし、外部講師等との連携のもと、救急救命士として必要な知識・技術を総括し、より実践的な技術を指導する。				
授 業 概 要	外部講師等との連携のもと、それまでの学内・外での臨地実習を踏まえ、救急救命士として必要な知識・技術を総括し、より実践的な実習を行う。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急隊長、隊員、機関員の役割に応じた活動ができる。 2. 適切な観察と正しい判断による必要な処置ができる。 3. 適応と実施する時期、または場所を考慮した特定行為ができる。 4. 医師への適切な情報伝達ができる。 5. 傷病者、家族等に対する適切なコミュニケーションがとれる。 6. 傷病者及び家族等を演じるにより、その心情を表現できる。 				
成績評価の方法と基準	学外講師及び専任講師による評価表を用いた実技試験評価 (40%) 専任講師による小テストの合計 (30%) 専任講師によるルーブリックを用いた態度評価 (30%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』 『救急活動シミュレーション学習』他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～ 第130回	実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学内・外実習を総括し、より実践的な実習を行う。 2. 適宜、学外講師からの実技指導と形成的評価を受ける。 3. 総括的評価として外部評価者による実技試験を受ける。 4. 関連した知識確認のための小テストを複数回受験する。 学外講師 <ul style="list-style-type: none"> ・井 清司 (熊本県赤十字血液センター所長) ・奥本 克己 (熊本赤十字病院総合救命救急センター長) ・山家 純一 (熊本赤十字病院第三救急科部長) ・原富 由香 (熊本赤十字病院第一救急科副部長) ・前原 潤一 (済生会熊本病院救命救急センター長・救急総合診療センター救急科部長) ・原田 正公 (国立病院機構熊本医療センター救命救急センター長) ・赤坂 威史 (熊本市市民病院) ・田代 尊久 (悠愛病院院長) ・松田 浩史 (公立玉名中央病院診療部長兼糖尿病・内分泌科部長) ・高井 英二 (くまもと南部広域病院副院長) ・松園 幸雅 (荒尾市民病院統括診療部長兼救急科部長兼 HCU 部長) 				後藤正和 仮屋俊作
第131回 ～ 第135回	実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年11月20日(土)1限目～5限目(予定) 実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・3人一組で救急隊を編成し、学院内に設営する想定会場を順に巡り実技試験を受ける。 ・外部評価者により、隊長としての活動を評価表を用いて評価する。 				〃

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨 地 実 習	科目名	消防実習
代 表 講 師	仮 屋 俊 作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	3	学期・回数	前期：135時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	救急救命士である指導者が、消防機関における救急救命士の役割と必要な知識・技術と態度を指導する。				
授 業 概 要	消防本部との連携のもと、将来、就職を希望する消防機関の全体像を理解する。また、消防機関における救急救命士の役割と必要な知識・技術を学習する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消防機関の社会的役割と基本的な業務内容について説明できる。 2. 消防機関及び社会における救急救命士の役割と責任について説明できる。 3. 待機中における業務（資器材点検、訓練など）の重要性を説明できる。 4. 救急隊・消防隊・救助隊の活動および通信指令・予防業務について説明できる。 5. その他、消防職員及び救急救命士として必要な事項を説明できる。 				
成績評価の方法と基準	実習指導者によるルーブリックを用いた実習態度評価（40%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（60%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項 『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
3週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査 2. 事前学習課題（実施要項に記載） <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。 2. 事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。 3. 少なくとも、次の実技試験に合格していること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) バイタルサイン測定と評価 (2) 救急現場における気道管理（喉頭展開含む）・呼吸管理 (3) 救急現場における循環管理（静脈路確保） (4) 搬送法 <p>実習消防本部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本市消防局 ・有明広域行政事務組合消防本部 ・八代広域行政事務組合消防本部 ・山鹿市消防本部 ・宇城広域連合消防本部 ・菊池広域連合消防本部 ・阿蘇広域行政事務組合消防本部 ・上益城消防組合消防本部 				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨 地 実 習	科目名	病院実習
代表講師	藤岡晴美・仮屋俊作（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 臨地実習指導者				
授業方法	実 習	単位数	4	学期・回数	前期：180時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	医師である指導者が、救急医療に関する知識の応用と、救急救命処置に関する技術と医療従事者としての態度を指導する。				
授業概要	各医療機関との連携のもと、医療現場での見学と医療行為の介助などを通じて、診療の補助に対する理解を深める。また、救急医療に関する知識の応用と、救急救命処置に関する技術と医療従事者としての態度を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設（部門）の構造と設備の特徴を説明できる。 2. 傷病者がどのような機序で発症し、どのように経過していくのか、また、それに対する医療処置、看護、検査がどのような流れで行われていくかなどを関連づけながら説明できる。 3. 医師、看護師等医療従事者の業務及びその連携について説明できる。 4. 患者及びその家族に対して良好なコミュニケーションがとれる。 5. インフォームド・コンセントの重要性について説明できる。 6. 施設（部門）内での清潔区域・操作を把握し、感染防止策を実践できる。 7. バイタルサイン、基本的な身体所見の観察ができる。 8. 心電図、血中酸素飽和度、血圧、心音・呼吸音聴取等の諸検査ができる。 9. 心肺機能停止患者に対する観察及び救急救命処置ができる。 10. 内因性・外因性・外傷患者に対する観察及び救急救命処置ができる。 11. 手術を見学し解剖生理及び、麻酔について説明できる。 12.カンファレンス・症例検討会に参加して知識を深めることができる。 13. その他、救急救命士として必要な事項を説明できる。 				
成績評価の方法と基準	実習指導者によるルーブリックを用いた実習態度評価（40%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（60%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項 『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
4週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査 2. 前年度の申し送りノートの記載事項確認 3. 事前学習課題（実施要項に記載、別冊あり） <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。 2. 事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。 3. 少なくとも、次の実技試験に合格していること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) バイタルサイン測定と評価 (2) 院内における気道管理（喉頭展開含む）・呼吸管理 (3) 院内における循環管理（静脈路確保） <p>病院実習</p> <p>熊本県内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本大学病院 ・国立病院機構熊本医療センター ・熊本市市民病院 ・熊本赤十字病院 ・済生会熊本病院 <p>県外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立病院機構長崎医療センター ・大分県立病院 ・新別府病院 ・宮崎大学医学部付属病院 ・宮崎県立宮崎病院 ・鹿児島市立病院 ・米盛病院 				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨 地 実 習	科目名	施設実習 I
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	前期：45 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	看護師・介護職である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授 業 概 要	各高齢者施設との連携のもと、入所者やデイケア、デイサービスの利用者との関わりを通して、高齢者の主観的幸福感や生きがいについて考察し、理解を深める。また、保健医療チームにおける福祉の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな対象者とのふれあいを通して、人間理解を深め社会性を向上させる。 2. 高齢者について身体的、精神的、社会的な側面から学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・「若い」による様々な変化を説明できる。 ・安全への配慮、事故防止対策などを説明できる。 3. 救急救命士として救急活動時の留意点、その他必要な事項を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、話す速さなど）が活用できる。 ・高齢者の特殊性を理解し、救急活動に直接通じる体位変換や移動の介助法を実践できる。 				
成績評価の方法と基準	実習指導者によるルーブリックを用いた実習態度評価（40%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（30%） 〃 感想文等評価（30%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項 『改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週間	事前学習 <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査 2. 前年度の申し送りノートの記載事項確認 3. 事前学習課題（実施要項に記載） 履修条件 次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。 2. 事前学習課題から出題する筆記試験に 80% 以上で合格すること。 実習施設 ・特別養護老人ホーム天寿園 ・介護老人保健施設ケアセンター赤とんぼ ・グループホーム おやまの郷 ・ケアホーム ラ・フランス ・デイサービス ぼぼろ ・第二コスモピア熊本 ・陽かりの郷 ・デイサービスぼぼろ 八王寺 ・デイサービスセンター明里 ・特別養護老人ホーム 悠優かしま ・あおぞらの里 西原デイサービスセンター ・シルバーピアさくら樹（デイサービス） ・清雅苑 ・花へんろ				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨 地 実 習	科目名	施設実習Ⅱ
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	前期：45時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	医師・看護師である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授 業 概 要	各精神科病院との連携のもと、罹患者との関わりを通じて、精神・神経疾患の症状、特徴について理解を深める。また、保健医療チームにおける精神科領域の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな対象者とのふれあいを通して人間理解を深め社会性を向上させる。 精神・神経疾患について身体的、精神的、社会的な側面から学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 精神に障害を持つ患者の治療の実際を見学する。 入院の必要性を、治療と精神保健福祉法の側面から説明できる。 救急救命士として救急活動時の留意点、その他必要な事項を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 看護師の対応から、傷病者への適切な接近方法を学ぶ。 対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、話す速さなど）が活用できる。 				
成績評価の方法と基準	実習指導者によるルーブリックを用いた実習態度評価（40%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（30%） 〃 〃 感想文等評価（30%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項 『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週間	事前学習 <ol style="list-style-type: none"> ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査 前年度の申し送りノートの記載事項確認 事前学習課題（実施要項に記載） 履修条件 次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。 <ol style="list-style-type: none"> 事前学習課題レポートの内容が優れていること。 事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。 実習施設 <ul style="list-style-type: none"> 弓削病院 中山記念病院 益城病院 				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨 地 実 習	科目名	施設実習Ⅲ
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：45時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	保育士である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授 業 概 要	各保育施設との連携のもと、乳幼児の実情を体感することにより、人間理解を深め社会性を養う。また、保健医療チームにおける保育の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな対象者とのふれあいを通して人間理解を深め社会性を向上させる。 乳幼児について身体的、精神的、社会的な側面から学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 成長過程による接し方（あやしかた・抱き方・遊び方など）ができる。 年齢・月齢での違いを説明できる。 救急救命士として救急活動時の留意点、その他必要な事項を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、言葉選び、集中のさせ方など）を活用できる。 乳幼児の生活行動様式から救命の連鎖の最初の「予防」の必要性を説明できる。 				
成績評価の方法と基準	実習指導者によるルーブリックを用いた実習態度評価（40%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（30%） 〃 〃 感想文等評価（30%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項 『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週 間	事前学習 <ol style="list-style-type: none"> ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査 前年度の申し送りノートの記載事項確認 事前学習課題（実施要項に記載） 履修条件 次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。 <ol style="list-style-type: none"> 事前学習課題レポートの内容が優れていること。 事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。 実習施設 ・小山保育園 ・保育所みどり園 ・やまばとこども園 ・げんき保育園 ・保育所なかよし園				